

教育研究評議会議事録（第230回）

日 時：令和5年10月26日（木） 15時00分～16時11分

場 所：事務局第一会議室及びオンライン会議

出席者：小川、藤代、喜多、水野、小藤田、山本、松岡、海妻、宮川、林、横山、境野、
八代、伊藤、村上、南、木村（直）、宮本、織田、松林、清水、柴垣、小林、成田、
萩原、澤井、木崎、小出

欠席者：木村（賢）、田代、天木

配付資料

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 議題1 | 令和7年度改組計画について |
| 報告1 | 令和4年度教職課程における自己点検・評価の実施結果について |
| 報告2 | 教員人事会議報告 |
| 報告3 | 学長・副学長会議報告（第272回～274回） |
| 報告4 | 令和6年度入学試験実施状況【学部（編入学）】【大学院】 |

議事に先立ち、前回議事録について、原案のとおり確定することとした。

議 題

1. 令和7年度改組計画について

学長から、令和7年度改組計画について諮る旨が述べられ、次いで理工学部改組計画の進捗状況を八代理工学部長から、農学部改組計画の進捗状況を伊藤農学部長から、獣医学部設置計画の進捗状況を山本副学長から、それぞれ資料に基づき説明があった。

審議において、次の質疑応答があった。

○理工学部改組計画

- ・半導体人材育成副プログラムにおいて、コースごとに開設する半導体関連科目についてはコースによる得意・不得意の差が出ると考えるが、学部全体としてバランスをとる工夫を検討しているか。

半導体関連科目のうち学部共通科目については、学部全体として構成を検討する。各コースにおける関連科目は、半導体が様々な専門分野からのアプローチが可能であることから、コースごとの特色を活かし、コースの専門性を尊重したカリキュラムとして準備したいと考えている。

- ・県内のデバイスメーカーでのインターンシップを取り入れることで、よりよいカリキュラムとできるのではないか。

社会体験学習として準備する予定ではあるが、本副専攻プログラムはあまり高いハードルは課さず、多くの学生が半導体に目を向けることができるようなカリキュラムとしたい。

○農学部改組計画

- ・アドミッションポリシーは、「学力の三要素」に基づいた内容に修正する必要があると考える。

現状が平成28年度改組時をベースに作成しており、修正して提出したい。

- ・理工学部の改組計画では、改組後のカリキュラムとした場合、CAP制の上限を引き上げることが必要との懸念が出ているが、農学部ではどうか。

現状では、CAP制の上限を引き上げる検討は行っていない。しかし、今度の検討次第では必要となる可能性がある。

専門職養成が目的のカリキュラムではない標準的なカリキュラムの場合、CAP制の上限を引き上げることについて、文部科学省の理解は得られないと考える。

○獣医学部設置計画

- ・教養教育科目の「健康・スポーツ」が獣医学部では別名称となっているが、内容については現状と同じと理解してよいか。

内容についての見直しは考えていない。東京農工大学との共通教育科目ということから、この科目名称を用いている。

- ・本学は100分×14回の授業回数で教養教育科目を開講しているが、15回の授業回数とする対応はできない。

現状の共同獣医学科においても、100分×14回の授業回数で開講している。

90分×15回の授業回数の場合と総授業時間数で不足が生じないことから、

100分×14回の授業で問題がなく、学部設置後も同様と考えている。

以上を確認の上、11月13日に予定されている文部科学省との事前相談に向けて、準備を進めることとした。

2. その他

なし

報 告

1. 令和4年度教職課程における自己点検・評価の実施結果について

藤代理事から、資料に基づき、令和4年度教職課程における自己点検・評価の実施結果について報告があり、11月にホームページにより学外公表することについて説明があった。

2. 教員人事に関する報告について

教員人事について、資料に基づき、教育学部長から1件、農学部長から1件、喜多理事から1件（教学マネジメントセンター）の報告があった。

3. 学長・副学長会議報告について

4. 入試結果の報告について

資料のとおり。

5. その他

なし。

最後に、学長から、次回の教育研究評議会を、定例の11月30日(木)の15時から開催することが述べられた。